

《修士論文要旨》

変化するネットスラングのスタイル

松 木 あ み*

論 旨

卒業論文で私は2つの若者言葉について研究した。そのうちの1つであるネットスラングについて、より深く研究してみたいと思い、様々な利用法を考察していた。主に掲示板で利用されていることが多いネットスラングだが、掲示板の書き込みはもちろん、掲示板の題目にも使用されていることが多くある。どの記事を読むか、といった際に選ぶ基準の1つとなるのがスレッドタイトルである。大型掲示板「2ちゃんねる」ではそのスレッドタイトルにネットスラングが使用されることが多くある。数行でより多くの人に読んでもらうための工夫としてどのようなネットスラングが利用されているのだろうか。また、利用している人の意識についても考察する。

今回の調査では「2ちゃんねる」という大型掲示板を利用した。しかし、毎時計測することはほぼ不可能であるので、ログを見ることのできる「ログ速」「unkar」といったサイトを利用し、ネットスラングを検索してどれだけ利用されているかを3カ月記録した。

主に利用されていたネットスラングは上位3つとも笑いの表現を意味するネットスラングであった。これらは単純に笑っている様子を表現することだけに利用されていたのではない。悲劇的な出来事や、書きこんだ人物が否定的に思うことも笑いの表現を利用していた。他にもただ語尾につけているだけで日記のように掲示板を利用し、同じ言葉を使う者の空気を楽しむ書き込みもあった。様々な捉えられ方をするネットスラングであるが、ネットスラングを利用する者に対する現実社会での評価は低い。これはどれほどインターネットが普及しても変化することはなかった。あまりネットスラングを利用しない人はもちろん、ネットスラングを利用する人自体も自虐や他の利用者に対する軽視が多く存在している。いまや日本中のほとんどの人が利用しているインターネット。ネットスラングだけでなく、インターネットや利用者に対する考えを少しでも改め、差別することなく前向きに言語の成長に関わっているということを知ってもらいたい。